

# こんにちは！ MED 村立東海病院です



東日本大震災が発生して、はや2か月が経過しようとしています。震災で大変な思いをされた方々には心よりお見舞い申し上げます。当院も震災による被害を受けましたが、大事には至らず通常どおりの診療を実施することができています。被災された方々のためにも、地域の皆さんのためにもこれまで以上に尽力し、地域医療の向上を目指していきます。

## ◆ お知らせ

「ヘルニア外来を開設しました！！」(毎週月曜日午後2時～4時)

～ヘルニアとは～

ヘルニアとは、体内の臓器(腸等)等が本来あるべき部位から体外に脱出してしまう状態のことをいいます。このうち、そけい部(またの付け根)の筋膜構造の弱い部分が出口となって発症するものは、「そけいヘルニア」(脱腸)と呼ばれます。

～そけいヘルニア(脱腸)の症状～

そけい部の腫瘍(腫れ)を自覚することが多いようです。咳をすると響く、重苦しい感じがするなどの異常を感じることもあります。嵌頓(痛みを伴う硬い腫瘍が引っ込まなくなる症状)は、危険な症状です。

～治療法～

人工補強材(プラグやパッチ)を使った手術で簡単に治すことが可能です。当院では膨潤局所麻酔の下に1泊2日の手術治療を随時行っています。局所麻酔なので手術室の滞在は短時間で済み、術後は直ちに普通に食事ができ、トイレの歩行も可能です。

思い当たる症状のある方、手術を希望される方、もっと詳しく知りたい方のお役に立てれば幸いです。

村立東海病院外科科長 小栗 裕

## ◆ コラム

### 「医師不足？」

世間では医師不足だと言われ続けて数年経過しますが、一体どのくらいの医師が不足しているのでしょうか？ 診療科等によっても違いはありますが、今回は単純に「お医者さんの数」についてお話ししたいと思います。

お医者さんの数を比較するためには通常、単位人口(1,000人)当たりの医師数というデータを使用します。WHO(世界保健機関)やOECD(経済協力開発機構)がまとめるデータを参考にすることが多いようです。このデータを見ますと、わが国には人口1,000人に対して2.1人のお医者さんがいることが分かります。日本の人口を1億2,700万人とすれば、現在のわが国のお医者さんはおよそ27万人ということになります。一方、OECD加盟国の平均は人口1,000人に対して3.1人なので、39万人のお医者さんが必要となり、OECD加盟国の平均の数を満たすためにはわが国であと12万人のお医者さんが必要ということになります。ちなみに、WHOのデータを参照すると、わが国のお医者さんの数(2.1人)に近い国々は以下のとおりです。

モンゴル 2.6人 エジプト 2.4人 ドミニカ共和国 1.9人

次に、茨城県に目を向けてみましょう。県のお医者さんの数は人口1,000人に対して1.5人(平成18年12月31日現在)です。これは全国47都道府県の中で46番目、ワースト2位ということになります。さらに県を主な医療圏に地区分割すると東海村の入る医療圏は、なんとお医者さんの数が全国で2番目に少なく県の中でも0.85人と“最低”なのです。先ほど同様、WHOのデータから東海村の医師数に近い国々をリストアップしてみましょう。

ツバル 0.9人 モルディブ 0.9人 ホンジュラス 0.6人

平均寿命の長さや乳幼児死亡率の低さを世界に誇れるわが国において、東海村のお医者さんの数は、国土の小さなツバルやモルディブ、内戦の続いたホンジュラスといった国々より少ない、あるいは同等程度のお医者さんの数なのです。

果たして、お医者さんは一体どこに集まっているのでしょうか――。

村立東海病院内科科長 薄井 尊信

問い合わせ●村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)